

『わたしならこうして大阪を元気にする』

タイトル：（仮称）AI 紙芝居屋 ほっこり爺や ～喋る掲示板で、町で人に語りかける装置を

1. 対象とするまちの場所（大阪府内）

本来の用途が維持できなくなったことで、老朽化しても修繕されない掲示板のある地域の公園

【Before】人が立ち止まらない、語りかけのない掲示板



2. 提案の背景と課題着想

地域に「顔が見える語り手」や「立ち止まるきっかけ」が失われつつある。公園や商店街に設置された掲示板が老朽化・形骸化しており、使われていない。高齢化・独居世帯増加の中、他者と接点を持たない“静かな孤独”が広がっている。そこで、**地域に残された掲示板（＝声を失ったメディア）に、AI の語り部機能を宿す。**

3. 提案の概要と特徴

町の掲示板に AI カメラとスピーカーを取り付け、人が近づくと声をかける「しゃべる・聴く掲示板装置」を設置。声の主は「（仮称）ほっこり爺や」という、昭和風の語り部 AI キャラクター。コンテンツは地域住民や学生から募集し、地域の記憶を共有・再構成する。毎日ひとつの紙芝居ストーリーを音声と画像で再生し、人の足を止め、会話を促す。AI 紙芝居屋《ほっこり爺や》は、昭和風の紙芝居屋台意匠を活かしながら、AI 音声合成とデジタル技術で地域住民に語りかけ、話を聴きとることでナレッジ（情報）を蓄積し、日を追うごとに成長する機能を備えている。

【装置のイメージ画像】

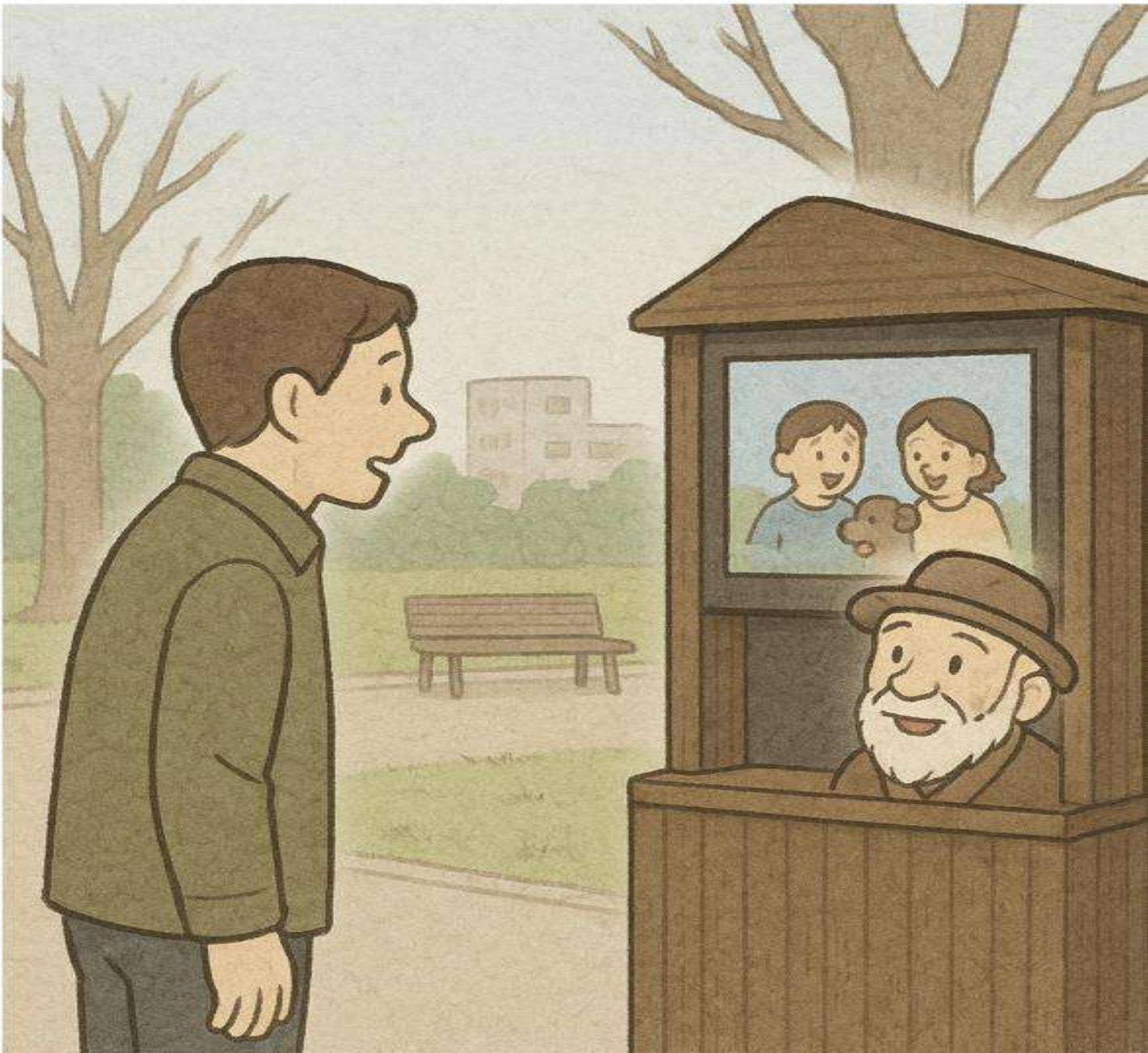


●装置の仕組み：

AI カメラが通行人を検知し、声掛けトリガーを起動。（例：「おう、今日も元気そうじゃのう」）1 日 1 話、音声＋ビジュアル紙芝居を再生（液晶画面）セリフ・ストーリーの住民参加型投稿システムを用意。防犯機能＋警報装置を搭載。近郊の警察に即時連絡が入る。夜間は“詩的模式”に切り替え、静かな語りで感情に訴える。QR コード連携で「今日の話をスマホに持ち帰る」機能付き。



【After】語りかけに立ち止まる風景



4. コンテンツと運営体制

①コンテンツ内容：

地域の昔話、商店主の語り、高齢者の体験談、子どもの作文など、地元学校や図書館と連携して収集・編集、AIによりナレーション音声化+紙芝居風ビジュアル生成、年4回、季節テーマで更新。

②運営体制：

【企画・運営】自治体・地元商店街・建築士チーム   【コンテンツ制作】導入時：学校・図書館・高齢者団体   【製作】木工職人・掲示板作成会社・金物、硝子工事会社・デジタルサイネージ業者・ITベンダー

5. 効果と波及性

分野	効果内容
地域文化	地域の語りをデジタル継承し、町のアイデンティティを再構築
景観活性	朽ちた掲示板の意匠を再生、まちの魅力を向上
観光・商業	映えスポット・SNS話題化・イベント起点として機能
教育・福祉	高齢者の語り手としての役割創出／子どもとの間接交流を促進
DXの推進	アナログとデジタルの融合、地域ITの実証実験場として活用

6. デザイン・構造イメージ

屋外・半屋外対応、防犯・防水設計。内部にカメラ、マイク、スピーカー、液晶画面、小型PC、太陽光パネル  
ステンレス製ガラス枠により液晶を保護（ハカマ蝶番の採用）ほっこり爺やのキャラは「レトロな語り部風」

7. 今後の展開と持続性

「〇〇町のほっこり爺や」シリーズ化。空き家や高齢者施設、こども園などへの展開。地域参加型プラットフォームへ進化（投稿・投票機能）SNSやYouTubeと連携し広報・観光導線へ

8. スローガン

「語るまちには、人が集まる。」

【未来構想】価値を持ち直した掲示板がまちの中心に

